

EPA の冠動脈プラークに及ぼす影響 —冠動脈 CT での評価—

竹中克彦 佐藤真司 森 超夫 森 隆宏
麻生明見 中村俊博 冷牟田浩司*

IRYO Vol. 64 No. 3 (220-223) 2010

要 旨

JELISにおいてスタチンにEPAを上乗せすることで心血管イベント発症を有意に抑制した。そこで今回我々は冠動脈CTを用いてEPAのプラーク安定化作用を評価した。結果LDC-C低下作用は認めたものの、冠動脈CTにおけるプラーク安定化は確認できなかった。

キーワード エイコサペンタエン酸, 冠動脈CT

はじめに

北欧のグリーンランド先住民は都市部に暮らす住民と比べて虚血性心疾患の発症率がきわめて低いという疫学調査がある。この背景としてグリーンランド先住民がエイコサペンタエン酸 (EPA: Eicosapentaenoic Acid) を多く含む食材の摂取が多いためと報告されている。EPAは ω -3系の多価不飽和脂肪酸 (PUFA) であり、魚類の脂肪中に多量に含まれるが、日本で開発された高純度EPA製剤 (エパデール®) を投与することにより、心血管疾患のイベント発生がどのように影響されるかを比較検討した大規模無作為試験としてJELIS (Japanese EPA Lipid Intervention Study) が知られている¹⁾。本試験は日本人高脂血症例、計18,645例の患者を無作為にEPA (1,800mg/day) + HMG-CoA還元酵素阻害剤 (以下スタチン) (EPA群) 9,326例とHMG-

CoA還元酵素阻害剤単独 (対照群) 9,319例に割り付け、最大5年間追跡調査を行った。その結果、EPA群は対照群に比べて主要冠動脈イベントの発症が有意に抑制されており (イベント発症率: 8.7% vs 10.7%, HR: 0.81, 95% CI: 0.66-1.00, $p = 0.048$)、スタチンにEPAを併用することで主要冠動脈イベントを19%抑制することが明らかにされた。その機序としてLDL-C低下作用のほかに、LDL-C代謝に依存しないEPAの粥腫の安定化作用や血栓形成抑制作用、冠動脈攣縮抑制作用や抗不整脈作用などの関与も示唆されている。今回、われわれは冠動脈CTを用いて高純度EPA製剤の投与が冠動脈プラークの性状へ影響するのか検討した。

対 象

対象として、

国立病院機構九州医療センター 循環器科 *臨床研究センター

別刷請求先: 竹中克彦 国立病院機構九州医療センター 循環器科 〒810-8563 福岡市中央区地行浜1-8-1
(平成21年9月14日受付, 平成22年1月8日受理)

Effect of Eicosapentaenoic Acid (EPA) on Coronary Artery Plaque Assessed by Multi-detector Row Computed Tomography

Katsuhiko Takenaka, Shinji Satoh, Etsuo Mori, Takahiro Mori, Akemi Aso, Toshihiro Nakamura and Koji Hiyamuta, National Hospital Organization Kyusyu Medical Center, Division of Cardiology Clinical Research Institute

Key Words: Eicosapentaenoic acid, multi-detector, row computed tomography